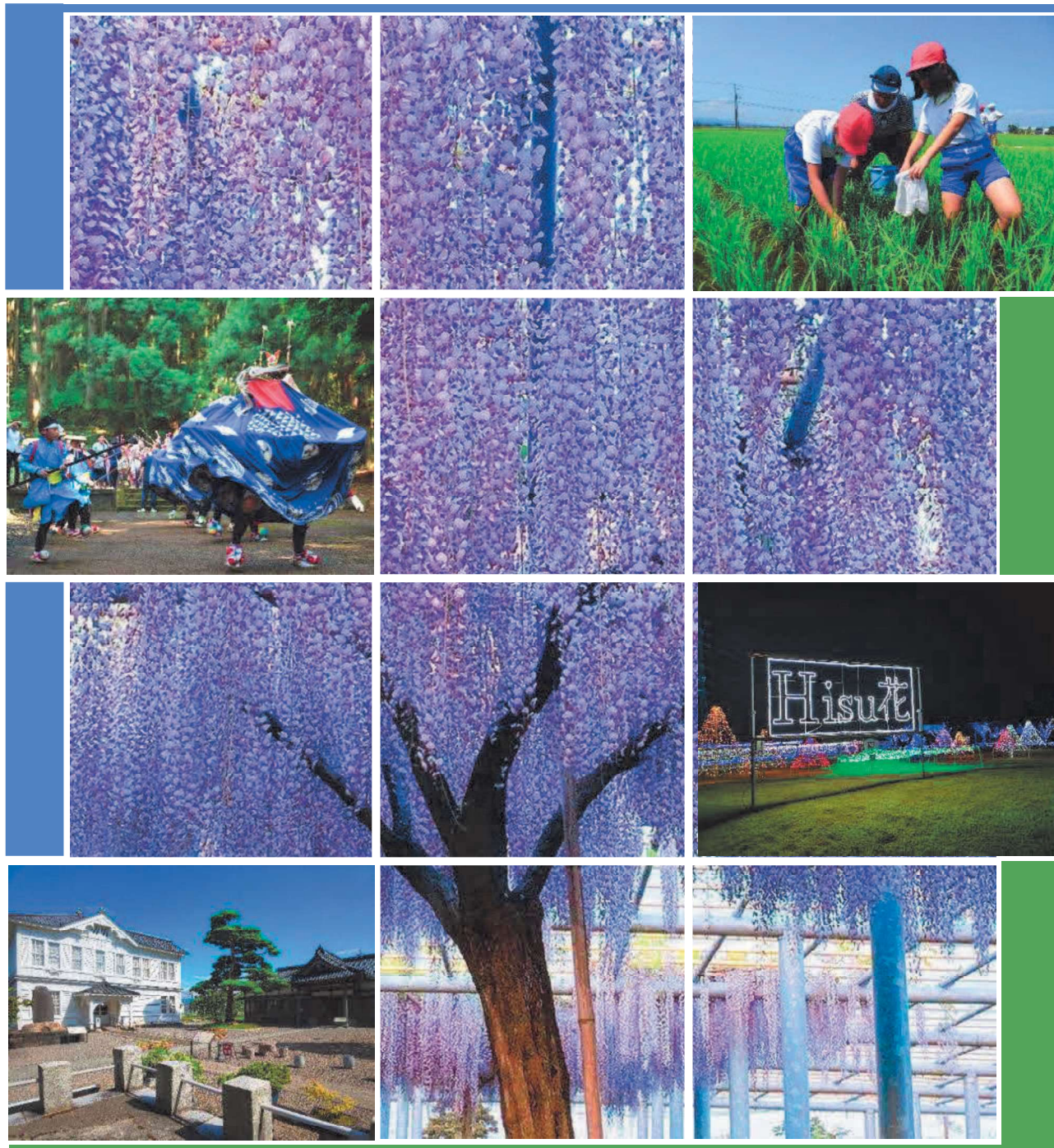




鶴岡市

藤島地域振興計画（案）

2024 年度 ▶ 2028 年度

2024 年 3 月 鶴岡市藤島庁舎

目 次

1. 計画の策定趣旨	1
2. 地域の特性・概要	2
3. 地域のこれから目指す方向性	4
4. 基本方針（3つの柱）	6
基本方針1 「未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興」	6
基本方針2 「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」	6
基本方針3 「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」	6
5. 主な施策	7
基本方針1－（1）有機農業からスマート農業まで多様な米づくりの推進	7
（2）関係機関の相互連携による技術習得と情報交換への支援	7
（3）地場産ブランド米の開発支援と販路拡大	8
（4）園芸作物の推進による複合経営の強化	8
（5）地域資源及び食農教育等を通じたふるさと意識の醸成	9
（6）産学官連携による地域づくり	10
基本方針2－（1）藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信	11
（2）Hisu 花と東田川文化記念館を中心とする観光拠点化の推進	11
（3）東田川文化記念館の利活用の推進と魅力発信	12
（4）藤棚等の適正な維持管理の推進	12
（5）伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり	13
（6）まつりなどの賑わい創出による魅力発信強化と地域振興	14
基本方針3－（1）中学校改築を契機とする藤島文厚エリアの整備推進	15
（2）安心して子育てできる地域を目指した環境整備	15
（3）公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系の確保	15
（4）健康でいきいきと暮らせるしくみづくり	16
（5）地域防災力の強化	16

参考資料

1. 藤島地域振興計画体系図（地域まちづくり未来事業との関係性）	18
2. 藤島地域の統計概要	19
3. 地域別人口推移	20
4. 世帯数・男女別人口推移	21
5. 年齢別人口	21
6. 人口動態の推移（藤島地域）	22
7. 高齢化率の推移	22
8. 地域別出生数の推移	23
9. 地域別婚姻数の推移	24
10. 産業別就業者数割合の推移（藤島地域）	25
11. 主副業別販売農家数の推移	25
12. グラフで見る各種データ推移	26
・ 対 H17 人口指数の推移（地域別比較・周辺市町比較）	
・ 藤島地域年齢 3 区分別人口の推移	
・ 男女別農業就農人口推移と対 H17 男女別人口指数推移	
・ 藤島地域年代別農業就農人口の推移	

1. 計画の策定趣旨

鶴岡市では、合併後も各地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため、地域庁舎ごとに平成20年3月に地域振興ビジョンを策定しました。

その後、地域振興ビジョンの見直しを行い、平成25年に「藤島地域振興計画」として新たな地域振興に資する計画を策定し、「農業関連資源を生かした地域振興の実現」、「ふじの里づくりの推進」の2つのテーマを掲げ、計画に基づいた個別プロジェクトにこれまで取り組んできたところです。

しかしながら、社会や地域を取り巻く状況の変化、特に少子高齢化に伴う人口減少が著しく進行しており、地域コミュニティの空洞化、基幹産業である農業の担い手不足などが一層拡大していくことが懸念されます。こうした課題を改めて捉え直し、現在の地域の実情に照らし合わせた新たな藤島地域の地域振興を総合的に進める必要があることから、平成25年度に策定した「藤島地域振興計画」の見直しを行い、令和元年度に「藤島地域振興計画（2019-2023）」を策定したところです。

このたび策定した新たな「藤島地域振興計画（2024-2028）」は、前計画の取組みを継承しつつ、上位計画である「第2次鶴岡市総合計画後期基本計画（2024-2028）」に基づき藤島地域の資源や特性を生かした地域振興を更に推進していくため、地域の目指す方向と重点的に推進する取組みについてより具体的に示す計画となります。

計画期間は2024年度から2028年度までの5年間とし、この計画に基づき、藤島地域の更なる振興・発展に向け、地域振興推進事業を展開しながら、地域の特色を生かした活力ある地域づくりを推進していきます。



2. 地域の特性・概要

藤島地域は、日本有数の穀倉地帯庄内平野のほぼ中央に位置し、古くから稲作を基幹産業として発展してきました。地形はほとんどが平野部で、自然環境の面からも農業に適した環境にあり、地域面積の6割以上が農地として利用されています。地域の中央部を藤島川が貫流し、流域には約3,900haの肥沃な耕地が広がっており、庄内平野を代表する美田地帯をなしています。



低コスト省力化技術による田植え作業

また、県立庄内農業高等学校、県農業総合研究センター水田農業研究所、庄内総合支庁農業技術普及課、米倉庫群である全農藤島倉庫等多くの農業関係機関が集積し、歴史的にも庄内農業を先導する拠点として中心的な役割を担ってきた地域です。特に、地域農業を担う人材を育成する庄内農業高等学校は、明治34年の創立



庄内農業高等学校農場での交流農園活動

以来、一世紀を越え、庄内地方唯一の農業高校として農を通じた教育を実践し、優れた人材を様々な分野に輩出するなど、庄内地方の農業の発展はもとより地域の振興に大きく貢献してきました。

藤島地域は、意欲的で先進的な農業者が多く存在している地域でもあります。他にも、ブランド米として全国的に人気の「つや姫」や新品種「雪若丸」の誕生の地としても知られています。

しかし、農業、とりわけ米作りを取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、農業経営に対する意欲の衰退や後継者問題など、農業離れが一層進んでいる状況となっています。このような中、商業、工業、観光等との連携を図りながら農業の魅力を高めるとともに、土地利用型園芸作物等との複合経営により農業経営の安定化を図り、農業の活力回復や農業者の意欲高揚につなげていく取組が重要となります。

藤島地域には、先駆的な農業地帯としての特徴のほか、藤島城址の長い歴史や各地に残る獅子踊りなどの伝統芸能、地域の花として定着している「ふじ」など他地域にも誇れる地域文化や資源等が多くあり、これらを活用した地域振興に取り組んできました。

特に「ふじ」は、旧藤島町時代から、まちづくりの基本理念に「日本一ふじの里づくり」を掲げ、公共施設への藤棚の設置やふじロードの整備、ふじの花まつりの開催など、これまでの各種取り組みにより「ふじ」そのものが藤島地域の地域資源の一つとなっています。

また、平成27年7月に「ふじ」をテーマとした藤島歴史公園「Hisu 花（ヒスカ）」が開園し、地域づくりやボランティア活動の拠点としての活用を図っており、市民協働での新たな取り組みが生まれるなどまちづくりに関わる人材育成の面からも大きな成果を上げています。なかでもふじのオフシーズンの魅力づくりとして、市民団体「Hisu 花ワークショップ」が主催する「藤島イルミネーション」は、県内でも有数のイルミネーションへと成長しています。



成長著しい藤島歴史公園「Hisu 花」の大藤棚のふじ



国指定史跡 東田川文化記念館「旧郡会議事堂」

それから、公園に隣接する歴史的文化遺産であり国指定史跡である旧東田川郡役所、旧東田川郡会議事堂を有する東田川文化記念館は、文化活動や生涯学習事業の拠点施設として活用が図られていますが、公園が開園してからは、公園と一体となる新たな魅力づくりにも取り組んでおり、交流拠点としての展開も進めているところです。また、地域内9ヶ所に五穀豊穡を祈願する勇壮な獅子踊りや神楽が保存継承されていることや稲作地帯の生活様式の一端を伝える藁文化も継承されていることから、それらの伝承に努めるなど歴史と文化が息づく地域づくりを進めています。

一方で藤島地域の人口減少が加速化しています。藤島地域の人口は、市町村合併時の11,969人から令和5年3月末では9,333人となり、2,636人の減、率にして22.0%減少しており、市全体の16.9%より高い減少率となっています。

また、令和22年（2041年）までの将来推計人口によれば、平成27年国調人口から比較すると、全市減少率が△27.4%に対



※～R2 国勢調査値、R7～社人研推計値

し、藤島地域は、△33.1%と見込まれ、65歳以上人口及び一人暮らし世帯の増加とともに、婚姻数・出生数の減少による少子高齢化が今後も進むとされており、藤島地域の人口減少の抑制に向けた取り組みが喫緊の課題となっています。



藤島中心部に位置する藤島文厚エリア

また、藤島地区地域活動センター周辺の通称「文厚エリア」と呼称されている区域には、文化・教育・厚生各分野の公共施設が集積し、各施策や事業の推進に中心的な役割を担っています。しかし、それらの公共施設の多くは建設から相当の年月が経過し、老朽化や狭隘化等の課題を抱えています。

現在、藤島中学校が改築の時期を迎えたことにより、藤島地域の教育環境の将来像を検討するため令和4年度から2年間、「藤島地域教育振興会議」が設置され、中学校の改築に早期に取り組むことや鶴岡型小中一貫教育を深化させる施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）としての整備を基本とすることなどが提言されました。これにより中学校改築への一定の方向性が示されたことから、今後、学校整備と合わせ文厚エリア内の公共施設に関わる議論も一層加速していく、重要な時期となります。

藤島地域は、豊かな田園が広がる美田地帯である一方で、庄内平野東縁断層帯に位置しており、有事の際の深刻な被害が懸念されます。また、藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性から大雨による河川の氾濫が発生しやすい地域でもあり、昨今の温暖化に伴う気象状況から頻発するようになった大雨災害への対応など、災害に対する地域防災力の強化が喫緊の課題となっています。



消防団による内水氾濫対策訓練

3. 地域のこれから目指す方向性

藤島地域は、多くの農業関係機関・団体などが集積し、先進的な農業に取り組む意欲的な農家が多く、特に稲作においては、庄内地方の農業の中心的役割を担ってきた地域です。このような地域特性を生かしながら、今後も重要な食糧生産地の一翼を担うとともに、安全で良質な、「人と環境にやさしい農業」を実践する地域であることを強みに、農業を核とした地域づくりを推進します。



これまで築き上げてきた豊かな田園文化を継承しつつ、土地利用型園芸作物等との複合経営を推進し、農家の所得向上をめざした取組を行います。

藤島地域がこれまでまちづくりに活用してきた「ふじ」や伝統芸能である「獅子踊り」など、地域が育んできた貴重な歴史と文化を次世代にしっかりと継承していく取組を進めます。また、藤島歴史公園「Hisu 花」や国指定史跡となった東田川文化記念館などを魅力ある地域資源として、これまで以上に発信し、市内外の交流の拡大と賑わい創出を図ります。

依然として進む少子高齢化に伴う人口減少を見据え、地域内の生活基盤を再構築する取組や高齢者がいきいきと暮らせる仕組みづくり、地域特性に即した防災力の強化など、住民が安心して生活し、暮らしやすさを実感できる施策を展開します。

また、子育て世代にも受け入れられる新しい学校づくりやそれを起点とする周辺の老朽化施設の整備検討にも着手します。

これらを具現化するため、藤島地域の地域振興の基本方針を1.「未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興」、2.「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」、3.「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」とし、この3つの柱を基に各種施策を設定し、地域活性化を進めます。



4. 基本方針

基本方針1 未来に繋げる田園文化と多様な水田活用農業の振興

これまで実践してきた人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全安心な農産物の生産を推進します。また、大規模農業や有機農業などの経営形態に応じた多様な米づくりを支援します。

あわせて、農業経営の複合化を図るとともに、地産地消を推進し、農家所得の向上をめざすプロジェクトを展開します。

また、農業が縁となり、これまで築きあげてきた首都圏大学との交流や、優れた人材を輩出し地域の農業を支えてきた庄内農業高等学校などとの連携を強化します。



基本方針2 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。

また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu 花」と隣接する東田川文化記念館を活用した地域づくりや観光拠点化の推進を図り、それに関わるボランティアの育成などにも取り組みます。地域の資源や特性を生かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。



基本方針3 くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

この地域に住みたいと思えるような、暮らしやすさを実感できる生活基盤の再構築に向けて、若者世代から選ばれる地域をめざした子育て・教育環境の充実と文厚エリアの整備推進を図ります。

地域公共交通のあり方など高齢者が社会参加しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組みを地域と協働で検討していきます。

また、庄内平野東縁断層帯の南端部に位置し、藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性があることから、地震、大雨などの災害に備えて、防災機能の強化や地域防災力の充実を図ります。



基本方針 1 (1) 有機農業からスマート農業まで多様な米づくりの推進

地域の特色である人と環境にやさしい米づくりを継続して推進するとともに、農家の大規模化に対応した低コスト・省力化技術等の習得を推進し、効率的な稲作経営の実現を支援します。

○具体的な展開方策**①スマート技術等の導入による低コスト省力化の推進**

藤島地域に適したスマート技術等を選定・導入することにより、作業時間や経費を削減し、稲作の生産性の向上を図るとともに地場産米の競争力を高めます。また、資源を効率的に活用し、環境負荷の低減を推進します。

②有機・特別栽培技術の伝承

藤島地域は、市内でも有機稲作等を先駆的に推進してきた地域であり、経験豊富な有機農家が多く、その栽培技術は多岐に渡ります。有機農業者が確立してきた有機農業技術を担い手世代へ継承し、持続可能な農業を推進します。

③良質堆肥の生産と土づくりの推進

鶴岡市藤島エコ有機センターを中心とした安定的な良質堆肥の生産体制を維持し、JA などの関係機関と連携して堆肥を活用した環境負荷の少ない土づくりを推進します。

基本方針 1 (2) 関係機関の相互連携による技術習得と情報交換への支援

県農業関係機関、JA等と連携し、基礎技術から高度技術まで幅広い研修等を実施するとともに、担い手農家の情報交換を支援します。

**○具体的な展開方策****①各種研修会等の開催による情報交換**

農業者で組織する団体等を中心に、省力化や低コスト農業技術等を研修し生産性の向上を図ります。また、新規就農者等を対象とした稲作の基礎技術研修を開催し、実践的な農業を学ぶとともに農家間の情報交換活性化を図ります。

②実証圃展示による技術の習得

稲作の先進技術の実証圃展示により、藤島地域の土壌や気候条件に合った技術を検証・共有します。また、県農業関係機関と連携し実証研究することで、生産性及び所得の向上を目指します。

③人と環境にやさしい農業の推進

有機農業団体等の構成員のレベルアップのための研修や全国的なオーガニックイベント等への参加を支援し、有機農業のトップランナーを育成します。また、GAP研修の受講を支援し、作業環境や農産物の安全確保に対する意識を向上させ、藤島産農産物のイメージアップに繋がります。

基本方針1 (3) 地場産ブランド米の開発支援と販路拡大



地場産ブランド米の開発を支援するとともに、地産地消を推進します。また、ふるさと納税や首都圏イベントにおけるPRなど販路拡大を図ります。

○具体的な展開方策

①独自ブランド米の確立と販売強化

藤島地域の人と環境にやさしいお米のブランド化を支援し、作り手の顔が見えるお米を流通させるとともに、多様なプロモーションを行い、販売強化を図ります。また、首都圏やふるさと会等でPRを強化し販路拡大を目指します。

基本方針1 (4) 園芸作物の推進による複合経営の強化

農業経営の安定化に向け、非主食用の新規需要米の生産拡大や、大豆などの水田を活用した土地利用型園芸作物を振興して水田における稲作との複合経営を推進します。



○具体的な展開方策

①土地利用型園芸作物の推進

稲作との複合経営が比較的普及している大豆の生産振興を図り、経営規模拡大を

支援します。また、園芸振興の先進地視察や実証圃の展示、有識者等を招聘して講演会を実施するなど、園芸作物に関する農家の技術向上、新規栽培の取組みを推進します。

② 6次産業化の推進

米粉や地場産農産物を活用した加工品開発及び販売の取組みを推進するほか、生産者と加工業者との連携支援に取り組み、農作物の付加価値向上を図ります。

③ 産直施設を活用した販売拡大

出荷量が少量の園芸品目や、新規産品などの販売先として産直施設の活用を促し、販路及び販売拡大を図ります。

基本方針 1 (5) 地域資源及び食農教育等を通じたふるさと意識の醸成



新鮮な地元農産物を学校給食に供給する団体を支援し、地産地消率の向上を図ります。また、食農教育や田んぼの生き物調査などの農業体験学習を通して子どもたちが農業の未来や魅力に関心を持ち、地域への誇りと愛着を育む取組を行います。

○ 具体的な展開方策

① 水田を活用した環境保全機能の学習

地域の小学生へ田んぼの生き物調査や首都圏の小学生に食農教育を実施することで、田んぼの生き物の役割や自然資源の有用性について理解を深めてもらい、自然と共生する地域づくりを目指します。

② 自然資源等を活用した地域振興

里山の自然資源や文化資源の環境整備に取り組みます。また、それらを活用した自治会活動等を通じて、次代への地域の歴史及び資源の継承を図るとともに、コミュニティの活性化を推進します。

③ 地産地消の推進

藤島地域の給食へ野菜を供給している生産者団体の技術向上や原料の安定確保を図るため、新規作物の栽培試験や保冷庫の貸し出しを行います。また、地元産直施設と連携した地場産野菜の安定供給などにも取り組み、更なる地産地消の推進を図ります。

基本方針 1 (6) 産学官連携による地域づくり

庄内農業高等学校と地域、農業関連団体などが連携して、学生の地域活動への参画を支援し、地域とともにありつづける魅力ある学校づくりを推進します。また、首都圏の大学との連携により農産物のPRを行い、首都圏と地域の交流を推進します。



○具体的な展開方策

①庄内農業高等学校との地域連携の推進

庄内農業高等学校地域連携協議会が中心となり、地域、関係団体に支援、協力を呼びかけ、庄内農業高等学校の生徒が地域で活躍できる取り組みを支援し、地域の振興につなげます。

②首都圏大学を活用した地域PRの推進

首都圏の大学等と連携して、外部からの若者視点で地域の魅力を探求し、地域活性化と人口減少の抑制、賑わい創出を図ります。また、地域と学生等との交流を深め、併せて首都圏での農産物のPR活動に取り組みます。

基本方針 2 (1) 藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信



藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくりとして、市民が Hisu 花を拠点にまちづくりや公園活用を検討できる場を設定します。また、ふじの花のライトアップやオフシーズンのイルミネーション点灯など、四季を通じた魅力発信を行い、公園の価値を高める環境整備に努めます。

○具体的な展開方策

①ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信

ふじの花の開花にあわせたライトアップにより公園の魅力をより一層高めるとともに、ふじの花のオフシーズンにもイルミネーションを設置し、公園を核とした地域の魅力発信と交流人口の拡大を図ります。

②藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり

公園の活用を通じた地域づくり活動を推進します。公園の活用促進に関わる個人や団体が自らのアイデアを提案できる場を創出し、公園の具体的活用策を具現化していきます。その際、実現に必要な協力者として長年藤島調査に関わってきた首都圏大学の関係者や藤島のファンなども巻き込み、公園発の地域づくりを進めます。

③藤島歴史公園の利用、誘客につながる環境の整備

公園の特徴を生かした誘客につながる環境整備と利用者の利便性を高める施設整備を推進し、公園の魅力を高めながら賑わい創出を図ります。

基本方針 2 (2) Hisu 花と東田川文化記念館を中心とする観光拠点化の推進

Hisu 花と東田川文化記念館を一体的な観光拠点と捉え、効果的なソフト事業の展開や施設の充実を図り関係人口の増加を促進します。また、これらの資源を活用し、地元商工業者等との連携による観光振興に取り組めます。



○具体的な展開方策

①東田川文化記念館の魅力再発見と利活用の促進

「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」の国史跡指定に伴い、来館者に歴史的価値を伝えるための展示整備、歴史学習などの充実を図ります。また「東田川文化記念利

活用計画」に基づき地域住民の文化活動を促進し、文化観光施設として活性化を図ります。

②Hisu 花と東田川文化記念館を中心とする観光事業の推進

藤島歴史公園の「ふじ」やイルミネーション、国史跡に指定された「旧東田川郡役所及び郡会議事堂」を観光拠点とした魅力ある情報発信に取り組みます。また、関係機関と連携した観光振興を進め交流人口の拡大を図ります。

基本方針 2 (3) 東田川文化記念館の利活用の推進と魅力発信



東田川文化記念館の利活用について地域住民と検討し、史跡としての歴史的価値を再認識できる情報発信などの事業を展開し文化意識の向上を図ります。

○具体的な展開方策

①地域学習・歴史学習の場としての活用の推進

市民や来訪者が当時の東田川郡政の歴史を学びやすい展示環境を整え、文化財保護に対する意識向上へとつながる学習の場としての活用を推進します。

②生涯を通じて楽しめる文化活動の拠点としての整備

文化活動の拠点として市民が利用しやすい環境整備を行い、芸術文化の享受の場として利便性の向上を図ります。

③地域との連携による魅力発信

地域住民団体等と連携を強化し、歴史公園との一体的な活用を検討するとともに、歴史的価値を含めた記念館の魅力を積極的に情報発信します。

基本方針 2 (4) 藤棚等の適正な維持管理の推進

ふじのまちにふさわしい藤棚の適正な維持管理を推進するとともに、地域住民、ボランティアなどの住民の主体性を生かした藤棚の管理や花壇整備などの活動を支援します。



○具体的な展開方策

①ふじの管理ボランティア団体等の育成支援

藤棚を管理育成するボランティア団体等が果たす役割が大きくなっています。今後とも見応えのある藤棚等を適正に管理育成するため、ボランティア団体等のスキルアップにつながる取組を支援します。

②ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理の推進

老朽化が進む藤棚やふじをモチーフとした看板等が多数存在し、更新が必要となっているため、それらを計画的に修繕し、ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理を行います。

基本方針 2 (5) 伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり



市内の伝統芸能の裾野を広げるイベントとして鶴岡伝統芸能祭を開催し、獅子の里「藤島」を発信します。また、伝統芸能の保存伝承にも取り組みます。

○具体的な展開方策

①鶴岡伝統芸能祭の開催

鶴岡市内外の各地に伝承されている「獅子踊り」や「神楽」など、地域の郷土芸能が会する「鶴岡伝統芸能祭」を開催し、伝統芸能のまち「藤島」を発信するとともに、市内の伝統芸能の裾野を広げる取組を推進します。

②伝統芸能の伝承支援

伝統芸能継承の担い手不足、コロナによる奉納休止等の状況下、活動継続している団体に対しての支援を強化します。また、後世に伝承していくための手段として映像等の資料整備や、保存団体の活動の情報発信に努めます。

基本方針2 (6) まつりなどの賑わい創出による魅力発信強化と地域振興

地域のシンボル「ふじ」や「農業」をテーマとするまつり開催などの賑わい創出により地域内外への魅力発信を強化し、観光振興を促進します。



○具体的な展開方策

①「ふじ」や「農業」をテーマとする賑わい創出

地域の花「ふじ」や基幹産業の「農業」の魅力を地域内外へ発信するまつりやイベント等を開催し、観光誘客と交流人口の拡大を図ります。

②地元商工業者等との連携による地域振興

地域のイベントや資源を活用し、地元商工業者等との連携を強化する取り組みを進め、賑わい創出による活性化と地域振興を図ります。

③地域の魅力再発信と観光環境整備

地域内の施設、史跡、みどころ等の観光資料を整備するとともに案内板やトイレなどの設備改修を行い、来訪者への魅力ある観光情報発信と環境整備を進めます。

基本方針3 (1) 中学校改築を契機とする藤島文厚エリアの整備推進

藤島中学校改築等の教育施設整備に合わせ、文化・教育・厚生施設の整備等の方向性を定める「藤島文厚エリア整備基本計画」を策定し、少子・高齢化が進む藤島地域の中長期的なグランドデザインを描くとともに、子育て世代に選ばれる魅力的なまちづくりを進めます。



○具体的な展開方策

①「藤島文厚エリア」の整備促進

文化・教育・厚生施設の整備等の方向性を定める「藤島文厚エリア整備基本計画」を策定し、学校改築等の教育施設整備と融合させた整備の促進を図ります。

基本方針3 (2) 安心して子育てできる地域を目指した環境整備



子育て世代が安心して子育てできる地域を目指した環境整備を行うため、老朽化が進んでいる児童館や保育園について、少子化の進展と子育て家庭のニーズに配慮した施設整備を検討し、子育て環境の充実を図ります。

○具体的な展開方策

①子育て支援施設・体制整備の検討

地域内の児童数の動向を見据えた保育園・児童館の施設体制の検討が必要となっています。児童館については、「藤島文厚エリア整備基本構想」策定の中で検討を進め、子育て環境の充実を図ります。

基本方針 3 (3) 公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系の確保

藤島地域内の既存の地域公共交通網を活かしながら、住民の利便性向上と公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系の確立を目指します。



○具体的な展開方策

①地域公共交通の維持・発展

地域が主体となる既存のデマンド交通を支援し、利用者ニーズの把握に努め、ブラッシュアップを図るとともに、藤島地域全域の公共交通再編にも取り組みます。

基本方針 3 (4) 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり



住民が健康でいきいきと暮らせる仕組みづくりとして、生涯スポーツなどに打ち込める環境整備に努めます。また、高齢者が生きがいを持って暮らし続けられるよう、社会参加の促進や買物弱者対策を進めるとともに、健康増進施設「長沼温泉ぽっぽの湯」などを活用したフレイル予防事業や子育て支援事業にも取り組みます。

○具体的な展開方策

①生涯スポーツの推進

高齢者でも気軽に行えるスポーツとして人気のあるグラウンドゴルフや生活習慣病の予防・改善効果が実証されているウォーキング等、住民が「無理なく・楽しく・継続して」行える生涯スポーツを推進し、健康増進を図るための仕組みづくりや環境整備に取り組みます。

②高齢者の社会参加の促進

高齢者の社会的孤立を防ぐため、社会福祉協議会等の関係団体と連携し、生きがいづくりと生活利便性の向上を目的とする総合的な外出支援事業に取り組み、高齢者の社会参加を促進します。

③健康増進施設「長沼温泉ぽっぽの湯」の活用

フレイル予防事業や子育て支援事業、家族参加型のイベントを開催し、幅広い年代の利用者拡大を図ります。住民の心と体の健康増進につなげます。

基本方針 3 (5) 地域防災力の強化

災害に強いまちづくりを推進するため、共助の基本である自主防災会運営の強化、避難所となる地域活動センターなどの施設環境の整備、関係する各組織の緊密な連携による訓練の実施や避難計画の策定などを支援し地域防災力の充実を図ります。



○具体的な施策

①自主防災会の支援

自治振興会と連携した各自主防災会での防災訓練の実施や災害時要援護者避難支援計画の策定、及び防災資機材整備を支援します。

②防災拠点の機能充実

災害時の的確・迅速な対応と防災基盤強化を図るため、避難所となる地域活動センターの防災資機材庫等整備、既存の防災関連設備を誰もが使えるようなマニュアルの整備及び必要な設備の機能強化に努めます。

1. 藤島地域振興計画体系図（地域まちづくり未来事業との関係性）

基本方針

主な施策

具体的な展開方策

令和6年度藤島地域まちづくり未来事業

【ポイント】
■水田活用農業の振興と多様な米づくりの推進
■ブランド米開発や農産作物等の推進による農家所得の向上
■Hisuwaや東田川文化記念館を活用した地域振興と観光振興
■ふじや伝芸堂館などの地域資源を活用するまちづくり
■健康で安心して暮らせる地域を目指した環境整備

1. 多様な水田活用農業の振興と田園文化と

- (1) 有機農業からスマート農業まで多様な米づくりの推進
- (2) 関係機関の相互連携による技術習得と情報交換への支援
- (3) 地域産ブランド米の開発支援と販路拡大
- (4) 園芸作物の推進による複合経営の強化
- (5) 地域資源及び食農教育等を通じ、ふるさと意識の醸成
- (6) 産学官連携による地域づくり

①スマート技術等の導入による低コスト省力化の推進	未来事業	藤島農産物元氣事業
②有機・特別栽培技術の伝承	未来事業	人と環境にやさしい農業推進事業
③良質堆肥の生産と土づくりの推進	未来事業	藤島農産物元氣事業
④各種研修会等の開催による情報交換	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑤実証圃展示による技術の習得	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑥人と環境にやさしい農業の推進	未来事業	人と環境にやさしい農業推進事業
⑦独自ブランド米の確立と販売強化	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑧土地利用型園芸作物の推進	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑨ふるさと産品の推進	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑩産直施設を活用した販売拡大	未来事業	藤島農産物元氣事業
⑪水田を活用した環境保全機能の学習	未来事業	人と環境にやさしい農業推進事業
⑫自然資源等を活用した地域振興	未来事業	人と環境にやさしい農業推進事業
⑬地産地消の推進	未来事業	人と環境にやさしい農業推進事業
⑭庄内農業高等学校との地域連携の推進	未来事業	庄内農業高校地域連携事業
⑮首都圏大学を活用した地域PRの推進	未来事業	藤島地域農の魅力拡大事業

藤島地域 地域の振興

2. 歴史と文化、交流の推進

- (1) 藤島歴史公園Hisuwaを活用した藤島地域の魅力発信
- (2) Hisuwaと東田川文化記念館を中心とする観光拠点化の推進
- (3) 東田川文化記念館の利活用の推進と魅力発信
- (4) 藤桐等の適正な維持管理の推進
- (5) 伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり
- (6) まつりなどの賑わい創出による魅力発信強化と地域振興

①ふじのラベンダーとイルミネーション等による魅力発信	未来事業	藤島歴史公園Hisuwaの魅力発信事業
②藤島歴史公園Hisuwaから始まる地域づくり	未来事業	藤島歴史公園Hisuwaから始まる地域づくり事業
③藤島歴史公園の利用、誘客につながる環境の整備	未来事業	藤島歴史公園案内板整備事業
④東田川文化記念館の魅力再発見と利活用の促進	未来事業	東田川文化記念館利活用事業
⑤Hisuwaと東田川文化記念館を中心とした観光事業の推進	未来事業	東田川文化記念館利活用事業
⑥地域学習、歴史学習の場としての活用推進	未来事業	東田川文化記念館利活用事業
⑦生涯を通じて楽しめる文化活動の拠点としての整備	未来事業	東田川文化記念館利活用事業
⑧地域の連携による魅力発信	未来事業	藤島花咲かせ活動支援事業
⑨ふじの管理ボランティア団体等の育成支援	未来事業	ふじのまつり事業、藤桐の整備事業、ふじのまちの伝芸堂事業
⑩ふじのまうにふさわしい藤桐等の維持管理の推進	未来事業	鶴岡伝芸堂祭開催事業
⑪鶴岡伝芸堂祭開催の推進	未来事業	
⑫「ふじ」や「農業」をテーマとする賑わい創出	未来事業	藤島地域観光拠点魅力アップ事業
⑬地元商工業者等との連携による地域振興	未来事業	藤島地域観光拠点魅力アップ事業
⑭地域の魅力再発信と観光環境整備	未来事業	藤島地域観光拠点魅力アップ事業

3. 実感できる生活基盤の再構築

- (1) 中学校改築を契機とする藤島文厚エリアの整備推進
- (2) 安心して子育てできる地域を目指した環境整備
- (3) 公共交通空白地帯を生まない持続可能な公共交通体系の確保
- (4) 健康でいきいきと暮らせるしくみづくり
- (5) 地域防災力の強化

①「藤島文厚エリア」の整備促進	未来事業	藤島文厚エリア検討事業
②子育て支援施設・体制整備の検討	未来事業	藤島文厚エリア検討事業
③地域公共交通の維持・発展	未来事業	長沼・八景地区地域公共交通導入事業、藤島地域公共交通再編事業
④生涯スポーツの推進	未来事業	長沼・八景地区地域公共交通導入事業、藤島地域公共交通再編事業
⑤高齢者の社会参加の促進	未来事業	長沼・八景地区地域公共交通導入事業、藤島地域公共交通再編事業
⑥健康増進施設「長沼温泉まじまじ」の活用	未来事業	長沼温泉まじまじの湯活仕化事業
⑦目玉防災会の支援	未来事業	
⑧防災拠点の機能充実	未来事業	

地域振興に資する具体的な事業を展開し活力ある藤島を目指す

2. 藤島地域の統計概要

区分		単位	藤島地域	市全体
人 口	H17.10.1 合併時 (住民基本台帳)	人	11,969	143,990
	R6.2.29 (住民基本台帳)	人	9,203 (減少率23.1%)	118,341 (減少率17.8%)
世帯数	H17.10.1 (住民基本台帳)	戸	3,067	46,851
	R6.2.29 (住民基本台帳)	戸	3,205 (増加率4.5%)	49,431 (増加率5.5%)
面 積	令和2.10.1	km ²	63.22	1,311.51
就業者数	R2国勢調査	人	4,971	62,393
	第1次産業	人	851(17.1%)	5,598(9.0%)
	第2次産業	人	1,448(29.1%)	17,888(28.7%)
	第3次産業	人	2,639(53.1%)	37,544(60.2%)
主副業別経営体数	2020農林業センサス	経営体	501	3,184
	主業	経営体	192(38.3%)	1,014(31.8%)
	準主業	経営体	87(17.4%)	608(19.1%)
	副業的	経営体	222(44.3%)	1,562(49.1%)
経営耕地面積	2020農林業センサス	a	360,263 (農家1戸当り691a)	1,550,126 (農家1戸当り474a)
工業事業所数	R3経済センサス -活動調査	事業所	42	446
商業(卸売業)事業所数	R3経済センサス -活動調査	事業所	17	279
商業(小売業)事業所数	R3経済センサス -活動調査	事業所	71	1,274
市営住宅	R5.4.1	戸	47	822
認可保育所	R5.4.1	所・人	2所(園児数166)	32所(園児数2,170)
認定こども園	R5.4.1	園・人	1園(園児数21)	16園(園児数1,174)
学童保育所	R5.5.1	所・人	1所(登録児童数144)	21所(登録児童数2,031)
小学校	R5.5.1	校・人	3校(児童数388)	26校(児童数5,333)
中学校	R5.5.1	校・人	1校(239)	11校(2,955)
高等学校	R5.5.1	校	1	8
医療施設	R5.3.31	所	5 (病院0) (一般診療所3) (歯科診療所2)	158 (病院6) (一般診療所103) (歯科診療所49)

3. 地域別人口推移

(単位:人)

年 次	鶴岡 (市街)	鶴岡 (郊外)	藤 島	羽 黒	櫛 引	朝 日	温 海	計
平成17年	63,208	35,193	11,969	9,579	8,376	5,541	10,124	143,990
平成19年	62,843	34,844	11,791	9,453	8,260	5,314	9,833	142,338
平成20年	62,414	34,440	11,657	9,394	8,166	5,212	9,613	140,896
平成21年	62,119	34,011	11,565	9,351	8,062	5,093	9,418	139,619
平成22年	62,030	33,575	11,465	9,233	7,982	5,002	9,212	138,499
平成23年	61,948	33,211	11,329	9,145	7,914	4,926	8,980	137,453
平成24年	61,819	32,800	11,137	9,046	7,783	4,834	8,727	136,146
平成25年	61,984	32,493	10,999	8,947	7,699	4,759	8,522	135,403
平成26年	61,556	32,132	10,847	8,814	7,605	4,615	8,262	133,831
平成27年	61,153	31,765	10,696	8,681	7,480	4,488	8,050	132,313
平成28年	60,643	31,402	10,516	8,592	7,437	4,400	7,859	130,849
平成29年	60,247	31,036	10,373	8,448	7,316	4,282	7,621	129,323
平成30年	59,778	30,711	10,176	8,287	7,206	4,141	7,437	127,736
平成31年	59,606	30,113	10,022	8,126	7,144	3,981	7,203	126,195
令和2年	59,413	29,649	9,909	7,934	7,029	3,859	6,904	124,697
令和3年	59,094	29,183	9,665	7,810	6,917	3,745	6,732	123,146
令和4年	58,710	28,571	9,512	7,618	6,771	3,649	6,534	121,365
令和5年	58,352	27,984	9,333	7,418	6,672	3,505	6,335	119,599
H17比較	92.30%	79.50%	78.00%	77.40%	79.70%	63.30%	62.60%	83.10%

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

4. 世帯数・男女別人口推移

(単位:人)

年 次	鶴岡市				藤島地域			
	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計
平成17年	46,851	68,995	74,995	143,990	3,067	5,720	6,249	11,969
平成26年	48,184	63,656	70,175	133,831	3,173	5,164	5,683	10,847
平成27年	48,293	62,995	69,318	132,313	3,180	5,112	5,584	10,696
平成28年	48,452	62,321	68,528	130,849	3,178	5,033	5,483	10,516
平成29年	48,486	61,642	67,681	129,323	3,172	4,960	5,413	10,373
平成30年	48,569	61,026	66,710	127,736	3,174	4,862	5,314	10,176
平成31年	48,718	60,324	65,871	126,195	3,179	4,791	5,231	10,022
令和2年	48,927	59,627	65,070	124,697	3,203	4,727	5,182	9,909
令和3年	49,182	58,890	64,256	123,146	3,183	4,605	5,060	9,665
令和4年	49,274	58,214	63,151	121,365	3,179	4,530	4,982	9,512
令和5年	49,336	57,478	62,121	119,599	3,194	4,467	4,866	9,333
H17比較	105.30%	83.30%	82.80%	83.10%	104.10%	78.10%	77.90%	78.00%

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

5. 年齢別人口

(単位:人)

年齢	平成17年	平成29年		平成30年		令和5年	
	鶴岡市	鶴岡市	藤島地域	鶴岡市	藤島地域	鶴岡市	藤島地域
0～14歳	19,667	14,963	1,175	14,530	1,126	12,589	921
構成比	13.70%	11.60%	11.30%	11.40%	11.10%	10.50%	9.90%
15～64歳	86,459	71,861	5,606	70,242	5,399	63,627	4,722
構成比	60.00%	55.60%	54.00%	55.00%	53.10%	53.20%	50.60%
65歳以上	37,864	42,499	3,592	42,964	3,651	43,383	3,690
構成比	26.30%	32.90%	34.60%	33.60%	35.90%	36.30%	39.50%
計	143,990	129,323	10,373	127,736	10,176	119,599	9,333

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

6. 人口動態の推移（藤島地域）

①自然動態

（単位：人）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	令和2年	令和4年
出生	105	105	90	79	60	49	36	41
死亡	131	153	129	144	149	158	162	186
増減	▲ 26	▲ 48	▲ 39	▲ 65	▲ 89	▲ 109	▲ 126	▲ 145

資料：住民基本台帳（各年1月～12月）

②社会動態

（単位：人）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年	令和2年	令和4年
転入	297	234	249	153	183	180	107	108
転出	319	290	311	150	301	356	153	170
増減	▲ 22	▲ 56	▲ 62	3	▲ 118	▲ 176	▲ 46	▲ 62

資料：住民基本台帳（各年1月～12月）

7. 高齢化率の推移

（単位：人）

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
鶴岡市全体	総人口 ①	149,509	147,546	142,384	136,623	129,652	122,347
	65歳以上人口 ②	30,647	35,020	37,630	39,222	41,303	43,003
	高齢化率 ②/①*100	20.5%	23.7%	26.4%	28.7%	31.9%	35.1%
藤島地域	総人口 ①	12,414	12,294	11,595	11,065	10,216	9,472
	65歳以上人口 ②	2,782	3,130	3,232	3,297	3,442	3,632
	高齢化率 ②/①*100	22.4%	25.5%	27.9%	29.8%	33.7%	38.3%

資料：国勢調査

8. 地域別出生数の推移

(単位:人)

年(暦年)	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	計
平成7年	973	105	99	86	56	84	1,400
平成13年	901	108	71	89	32	77	1,278
平成18年	836	91	79	58	33	62	1,159
平成21年	734	84	69	46	32	49	1,014
平成22年	750	79	70	58	26	43	1,023
平成23年	727	61	69	51	27	45	980
平成24年	693	76	60	41	25	39	934
平成25年	677	50	51	51	27	37	893
平成26年	697	59	52	45	18	29	900
平成27年	646	60	69	52	30	32	889
平成28年	630	61	50	44	25	22	832
平成29年	569	49	64	59	15	19	775
平成30年	590	49	41	40	19	20	759
平成31年	539	50	47	37	8	21	702
令和2年	551	37	32	34	21	16	691
令和3年	533	40	38	33	15	26	685
令和4年	478	43	36	34	9	18	618
令和5年	472	51	37	22	15	21	618
H7年比較	48.51%	48.57%	37.37%	25.58%	26.79%	25.00%	44.14%

資料：住民基本台帳・戸籍システムからの推計値

9. 地域別婚姻数の推移

(単位:人)

年(暦年)	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	計
平成7年	489	60	41	36	28	45	699
平成13年	532	69	47	37	26	46	757
平成18年	429	51	37	39	24	27	607
平成21年	413	46	46	32	18	32	587
平成22年	404	46	37	29	13	24	553
平成23年	385	42	30	34	19	24	534
平成24年	389	29	36	29	18	22	523
平成25年	333	32	32	23	10	20	450
平成26年	368	32	44	31	14	14	503
平成27年	385	42	27	31	12	21	518
平成28年	359	31	29	22	12	23	476
平成29年	338	36	28	26	14	23	465
平成30年	306	18	28	23	8	12	395
平成31年	306	30	29	29	17	14	425
令和2年	302	24	25	11	10	14	386
令和3年	238	19	11	24	12	14	318
令和4年	274	16	16	15	7	12	340
令和5年	271	24	19	11	11	7	343
H7年比較	55.42%	40.00%	46.34%	30.56%	39.29%	15.56%	49.07%

資料：住民基本台帳・戸籍システムからの推計値

10. 産業別就業者数割合の推移（藤島地域）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
第1次産業	22.9%	19.5%	19.2%	17.1%	17.6%	17.1%
第2次産業	39.8%	38.1%	33.8%	32.1%	29.0%	29.1%
第3次産業	37.2%	42.4%	47.0%	50.7%	51.2%	53.1%

分類不納の産業があり合計が100%にならない場合がある

資料：国勢調査

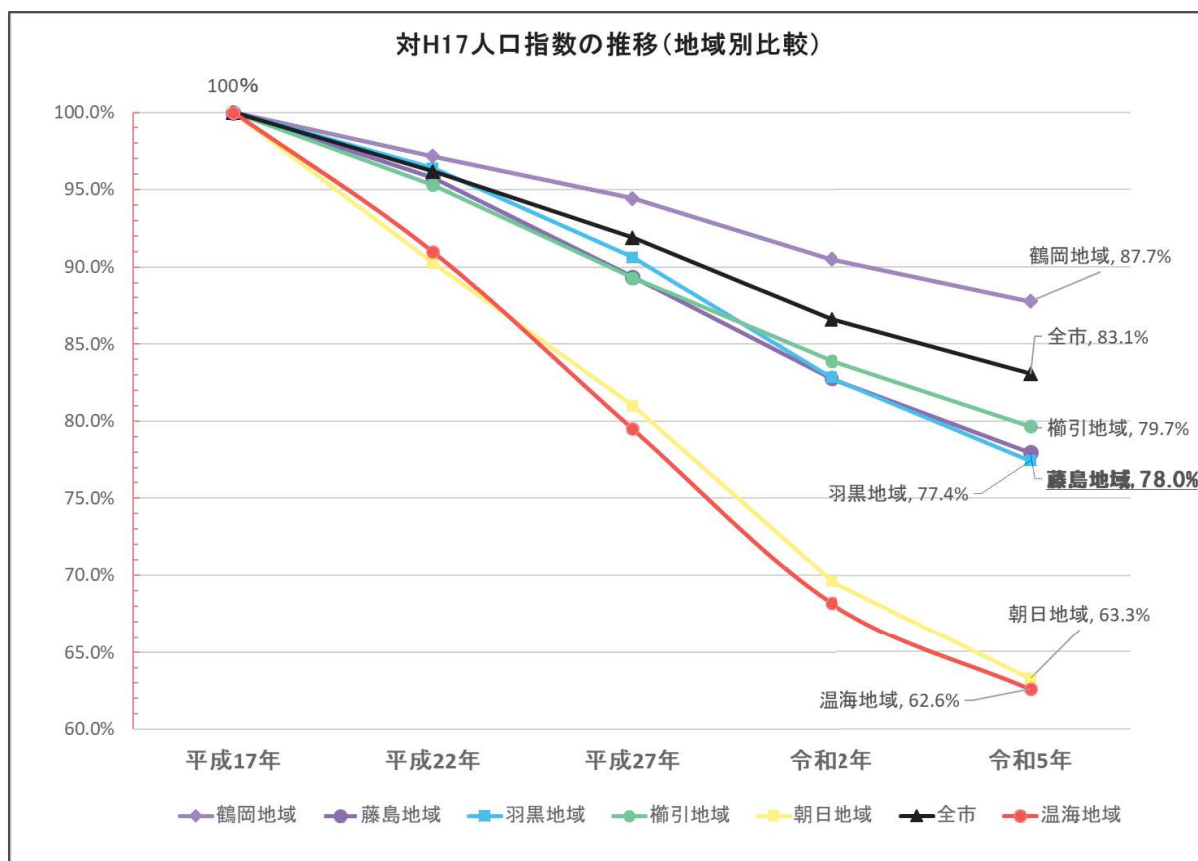
11. 主副業別販売農家数の推移

（単位：戸／経営体）

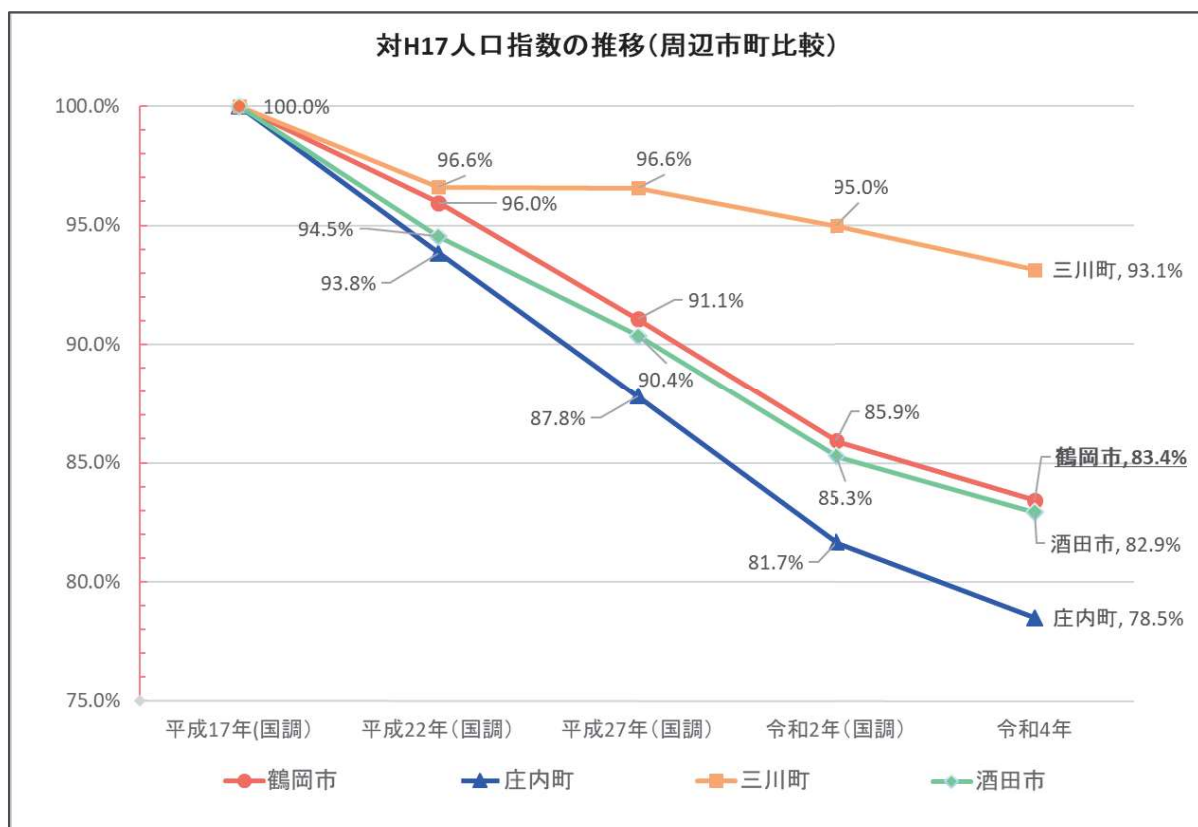
区分	平成12年	平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
			対H12比		対H12比		対H12比		対H12比
山形県	56,644	49,013	86.5%	39,112	69.0%	32,355	57.1%	27,233	48.1%
主業	15,377	13,996	91.0%	11,016	71.6%	9,077	59.0%	7,698	50.1%
準主業	17,759	13,647	76.8%	11,306	63.7%	8,077	45.5%	4,065	22.9%
副業的	23,508	21,370	90.9%	16,790	71.4%	15,201	64.7%	15,470	65.8%
鶴岡市全体	6,138	5,444	88.7%	4,538	73.9%	3,838	62.5%	3,184	51.9%
主業	1,873	1,771	94.6%	1,393	74.4%	1,167	62.3%	1,014	54.1%
準主業	2,312	1,849	80.0%	1,642	71.0%	1,136	49.1%	608	26.3%
副業的	1,953	1,824	93.4%	1,503	77.0%	1,535	78.6%	1,562	80.0%
藤島地域	1,014	892	88.0%	717	70.7%	608	60.0%	501	49.4%
主業	378	356	94.2%	267	70.6%	214	56.6%	192	50.8%
準主業	378	287	75.9%	241	63.8%	182	48.1%	87	23.0%
副業的	258	249	96.5%	209	81.0%	212	82.2%	222	86.0%

資料：農林業センサス（H12年は合併前の旧6市町村の集計値、R2年は個人経営体の数値）

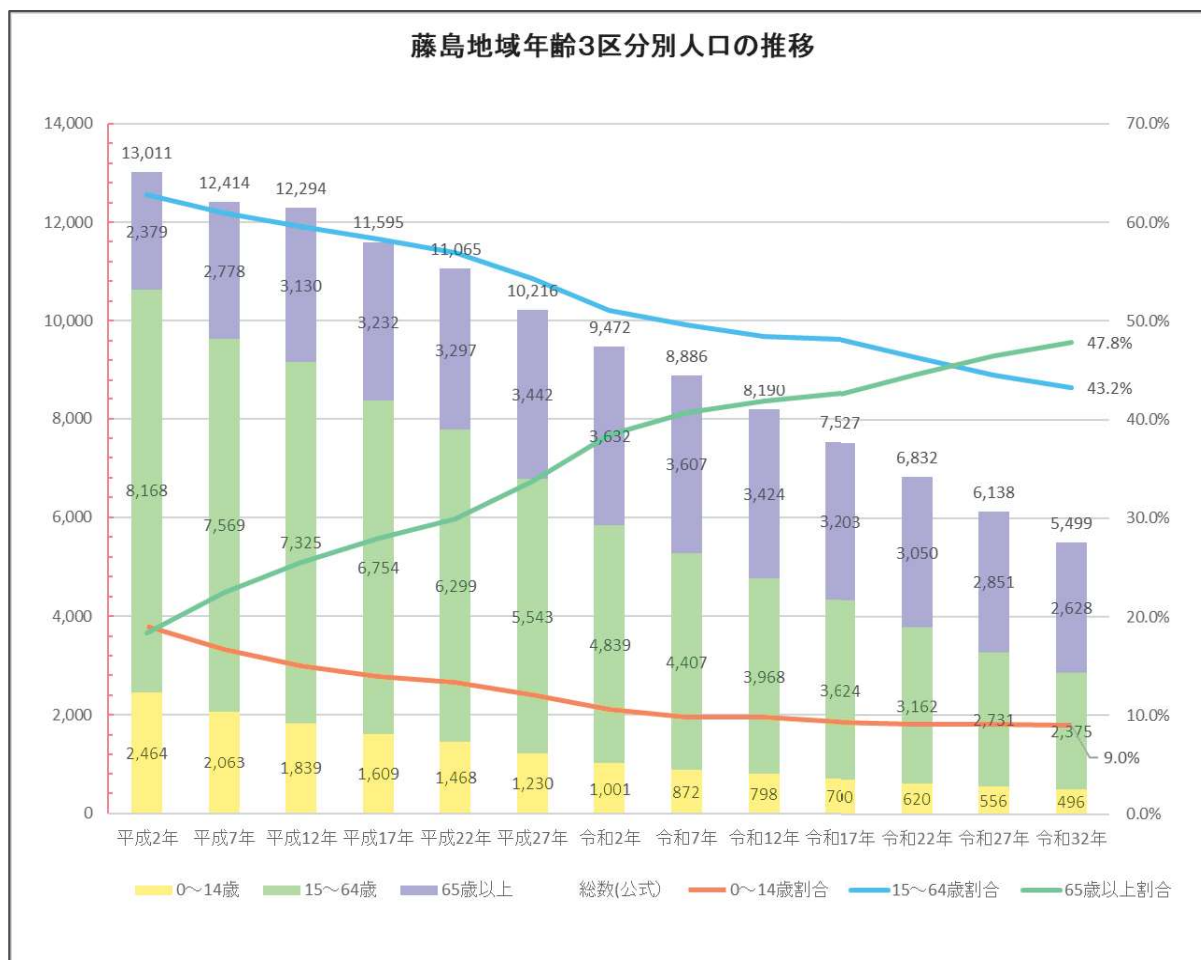
12. グラフで見る各種データ推移



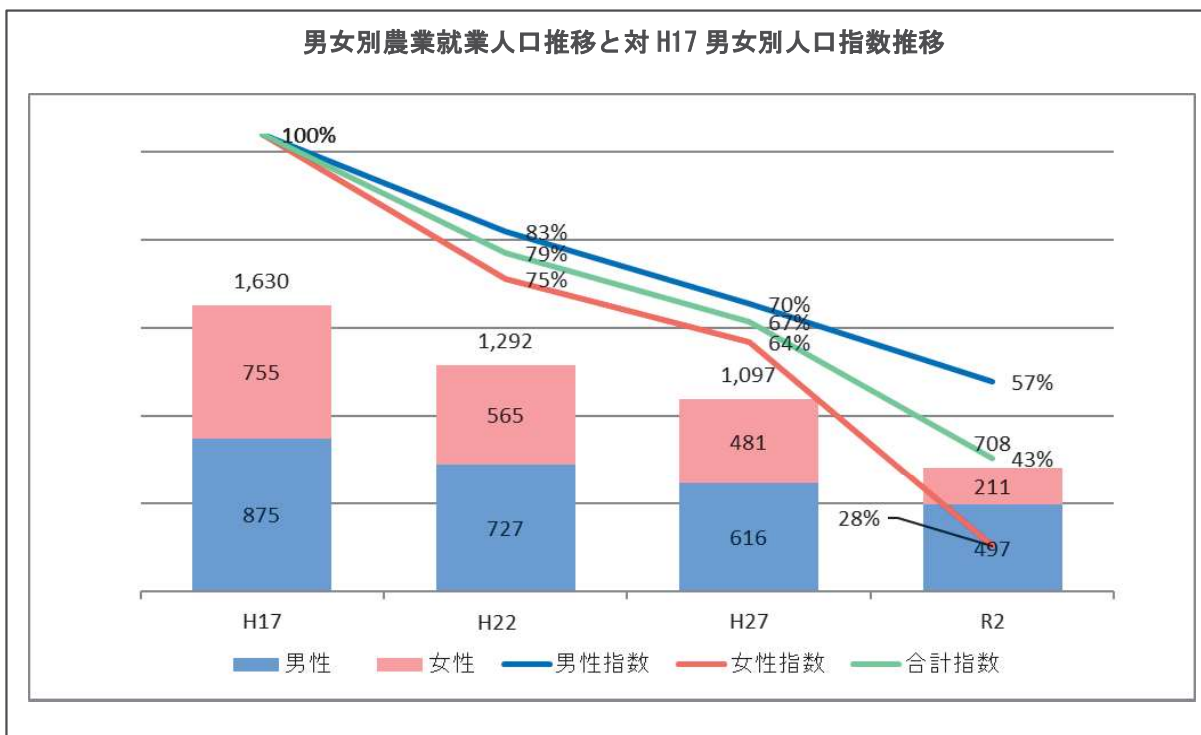
資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）



資料：H17.22.27.R2年は国調、他は山形県社会的移動人口調査（各年10.1現在）



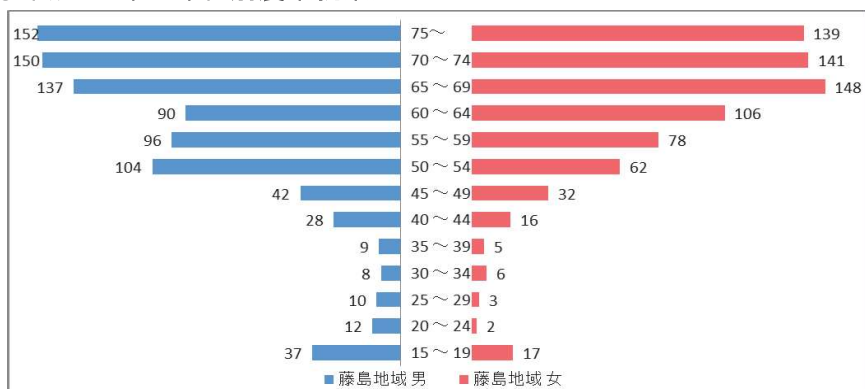
資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所



資料：農林業センサス

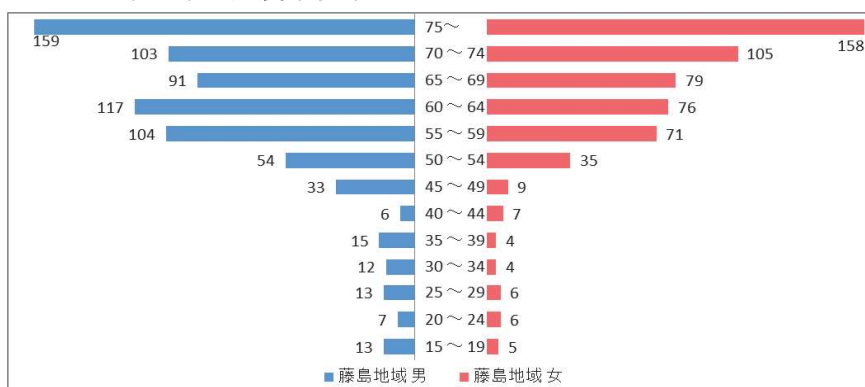
藤島地域年代別農業就業人口の推移

○平成 17 年 年代別農業就業人口



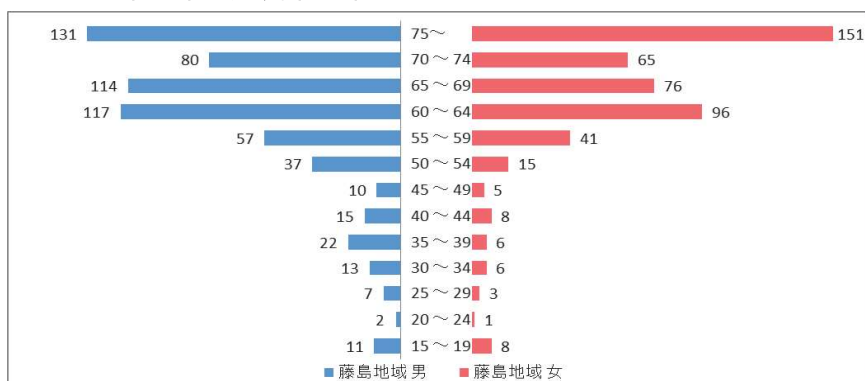
男 875 名
女 755 名
合計 1,630 名

○平成 22 年 年代別農業就業人口



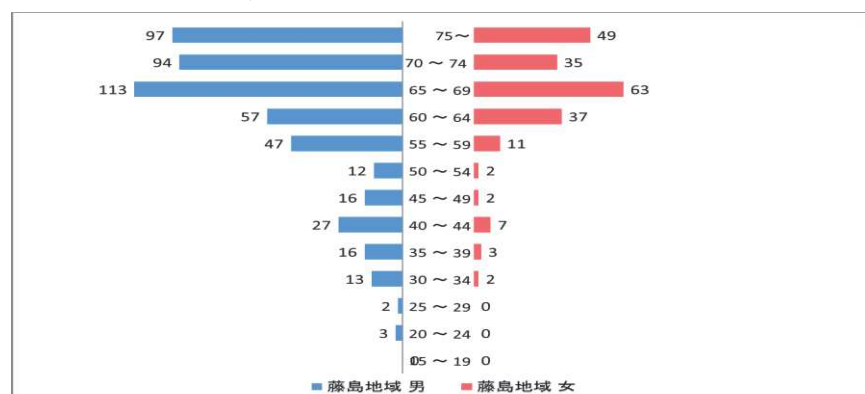
男 727 名
女 565 名
合計 1,292 名

○平成 27 年 年代別農業就業人口



男 616 名
女 481 名
合計 1,097 名

○令和 2 年 年代別農業就業人口



男 497 名
女 211 名
合計 708 名

資料：農林業センサス



鶴岡市藤島庁舎

藤島地域振興計画